

# 仙台市のエイズ・性感染症の現状(令和2年12月末現在)

## 1. HIV・エイズ発生動向

### (1) HIV感染者とエイズ患者報告数年次推移の比較

○ 全国の状況 (R2年は速報値)

・令和元年のHIV感染者数は903件、エイズ患者数は333件、HIV感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数は1,236件で、過去20年間で14番目の報告数である。【図1】

・令和2年のHIV感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数(速報値)は1,075件で、前年よりも161件減少した。【図1】

図1 全国のHIV感染者とエイズ患者報告数の年次推移 【昭和59年～令和2年】※R2年は速報値

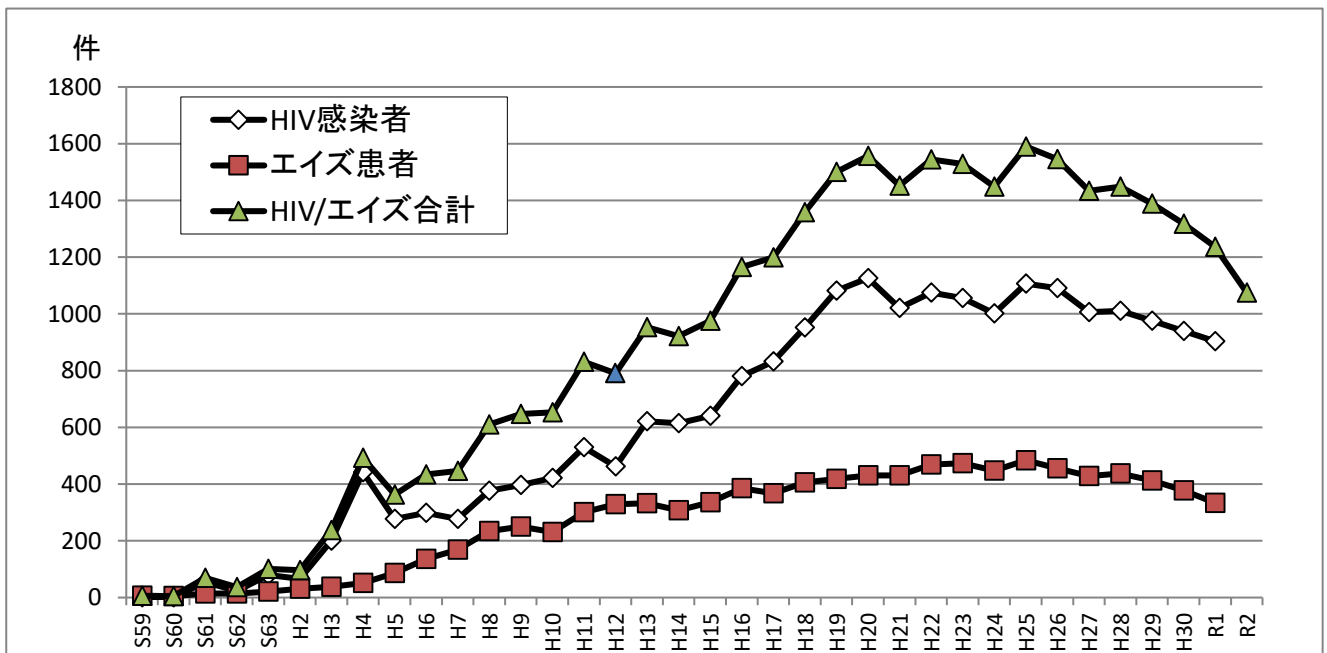
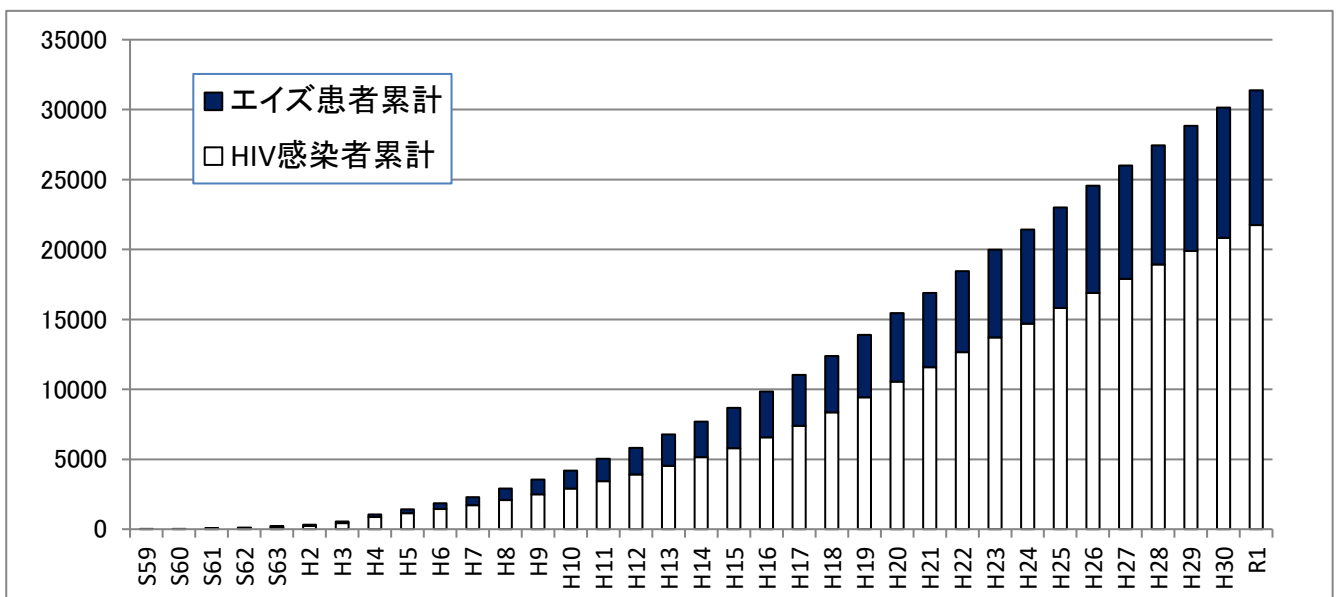


図2 全国の令和元年までの累積報告数



○ 仙台市の状況（R2年は速報値）

- ・新規報告数は令和元年がHIV感染者11件、エイズ患者5件の計16件であった。
- ・令和2年の新規報告数（速報値）はHIV感染者5件、エイズ患者2件の計7件と過去10年で最も少ない報告数となった。【図3】

図3 仙台市のHIV感染者とエイズ患者報告数の年次推移【昭和63年～令和2年 ※R2年は速報値】

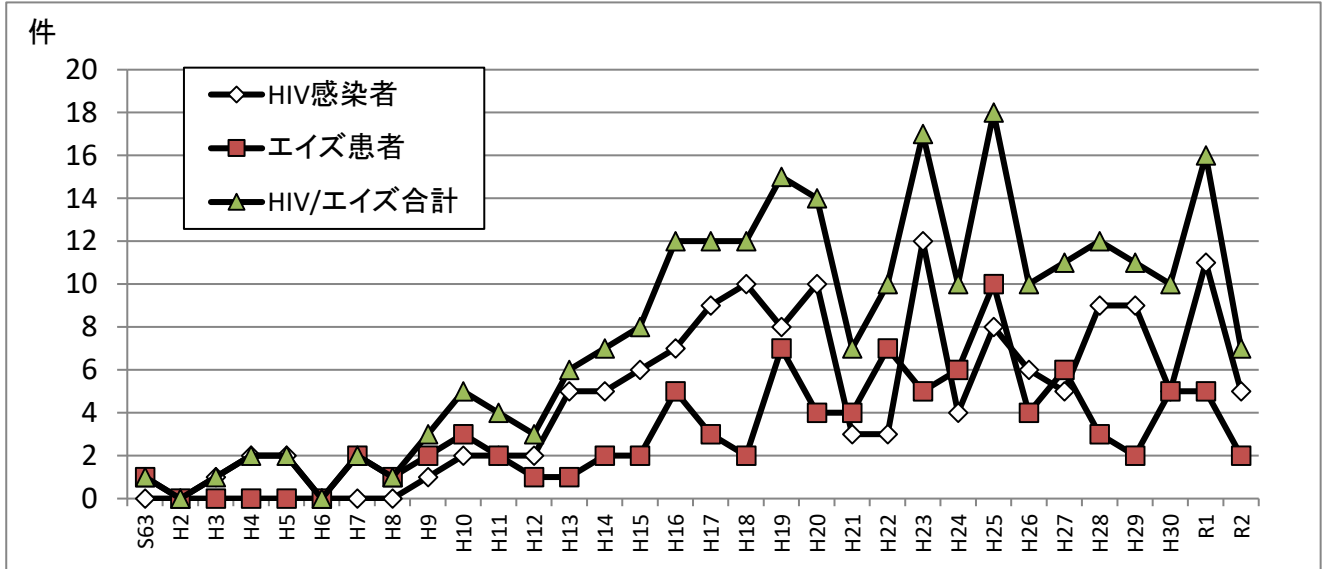
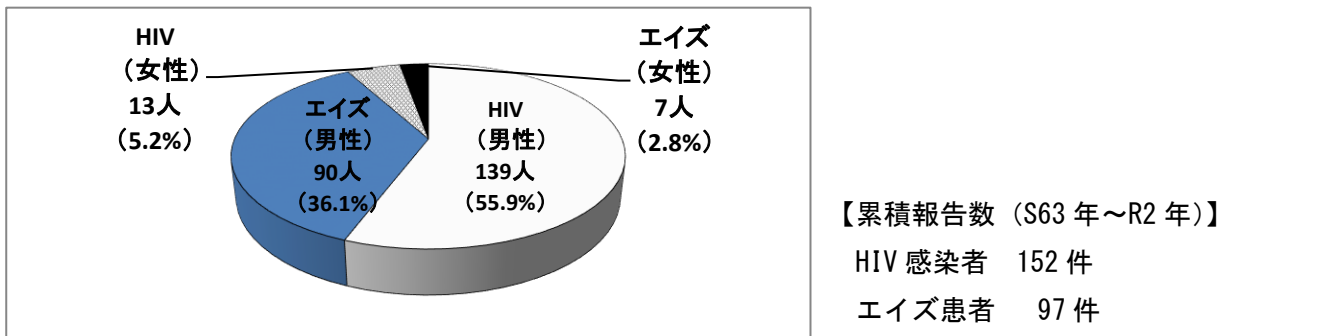


図4 仙台市のHIV感染者・エイズ患者 累積報告数の性別割合【昭和63年～令和2年 ※R2年は速報値】



(2) いきなりエイズ率

- ・全国の「いきなりエイズ率」は30%前後で推移している。【図5】
- ・仙台市の「いきなりエイズ率」は、年によってばらつきがある。令和元年は31.3%と前年よりも割合が減少したが、全国に比べ高い割合である。【図5】
- ・過去5年の仙台市の累積報告は、年齢が上がるほどエイズ患者の報告が多くなり、50代以上では半数以上がエイズ患者として報告されている。【図6】

※ 「いきなりエイズ率」とは、HIV感染を認知せずにエイズを発症した事例の割合を言う。

図5 全国及び仙台市の「いきなりエイズ率」の年次推移（平成21年～令和元年）

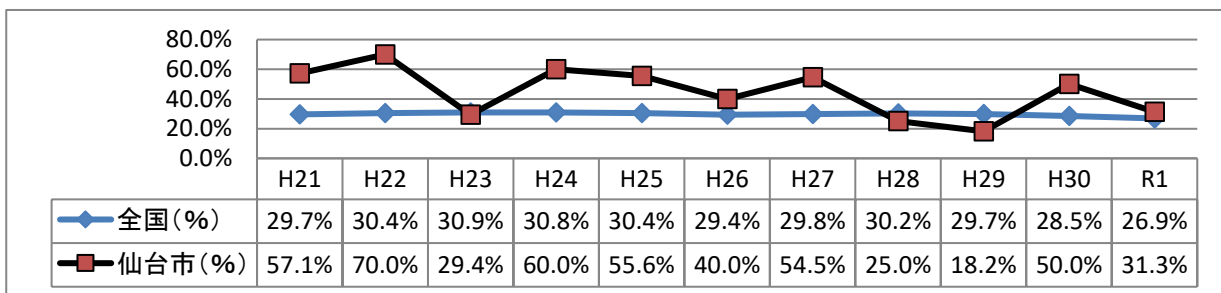
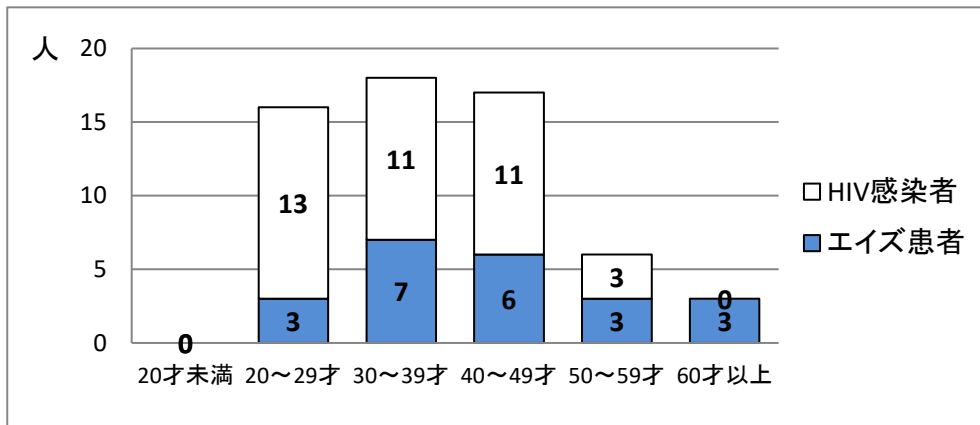


図6 仙台市のHIV感染者・エイズ患者年齢別割合【平成27年～令和元年累計】



(3) 仙台市のHIV感染者・エイズ患者の推定感染原因

- 過去5年の累積報告における推定感染原因【図7】
  - ・推定感染原因が判明している方は93%で、すべて性的接触による感染であった。
  - ・同性間性的接触が大部分を占め、71%であった。異性間性的接触・同性間性的接触の両方の可能性がある方が2%だった。
- 年次推移報告【図8】
  - ・過去5年間のいずれの年においても同性間性的接触件数が最も多い。

図7 仙台市の推定感染原因別感染者・患者報告割合【平成28年～令和2年累計】

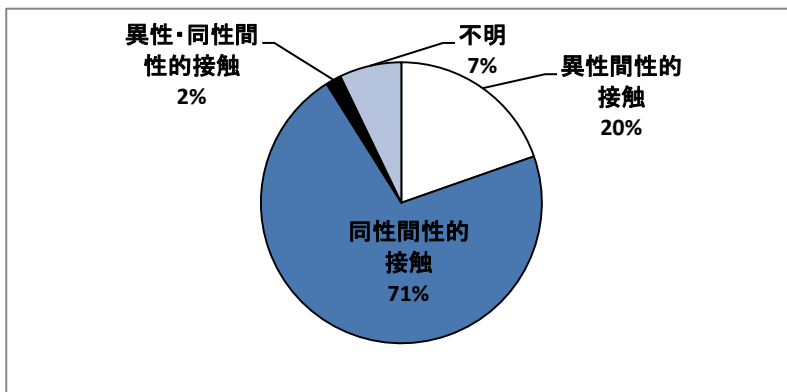
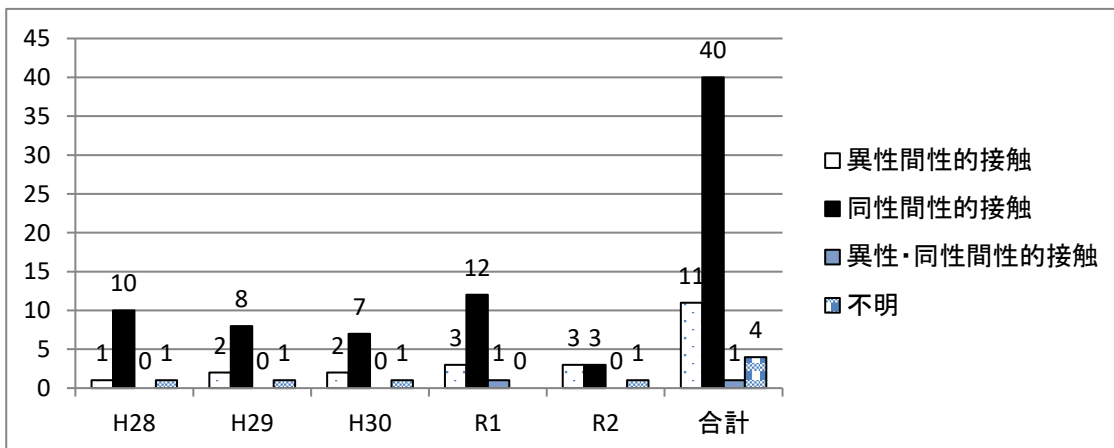


図8 仙台市の感染経路別報告数年次推移【平成28年～令和2年】



## 2. 梅毒発生動向

### ○ 全国の状況（令和2年は速報値）

・平成23年以降増加傾向にあり、特に平成28年以降大幅な増加が続いている。令和元年の報告数は6,642件、令和2年（速報値）は5,784件とやや減少傾向にあるが依然として報告数の多い状況が続いている。

・男女別で見ると、過去5年間、いずれの年も男性の報告数が女性よりも多いが、女性の報告割合も増加している。【図10・図11】

・令和元年の報告を年代別にみると、男性は20代～40代に多く、女性は20代が突出して多い。10代・20代は男性よりも女性の報告数が多い。【図12・図17④⑤⑥】

図9 全国の病期別梅毒報告数の推移【平成20年～令和2年 ※R2年は速報値】

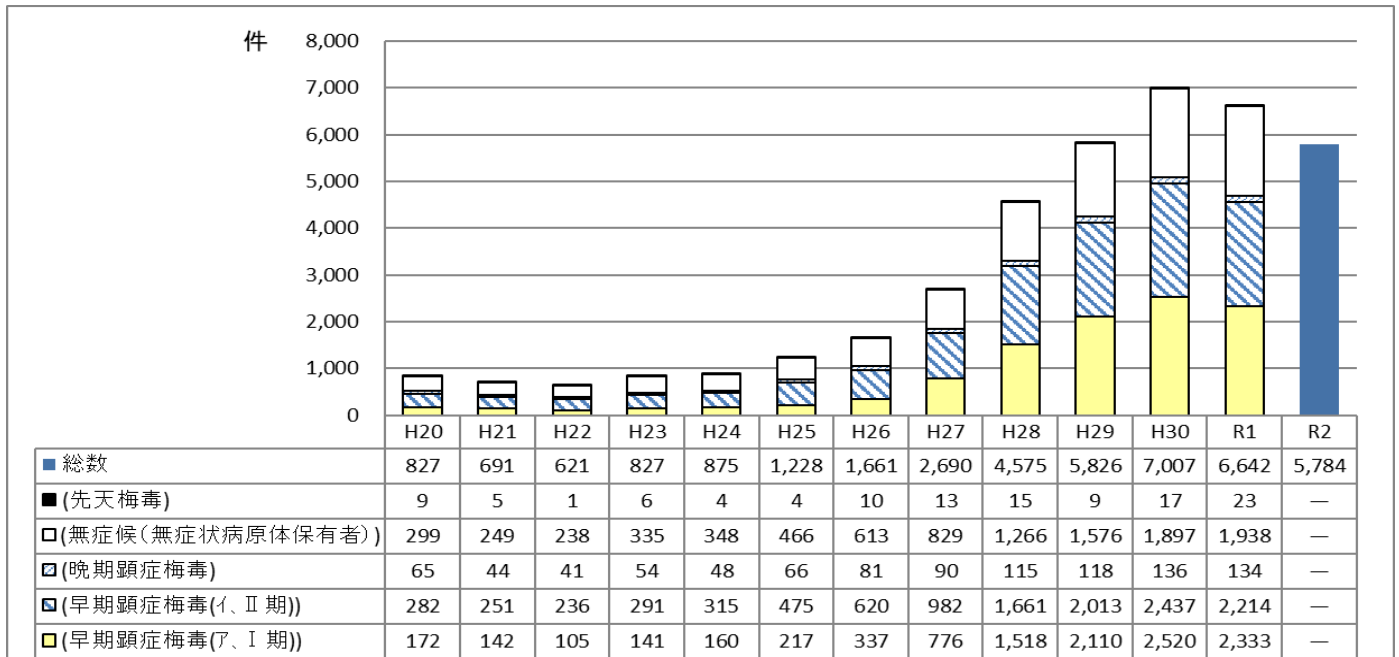


図10 全国の男女別梅毒報告数の推移【平成27年～令和元年】

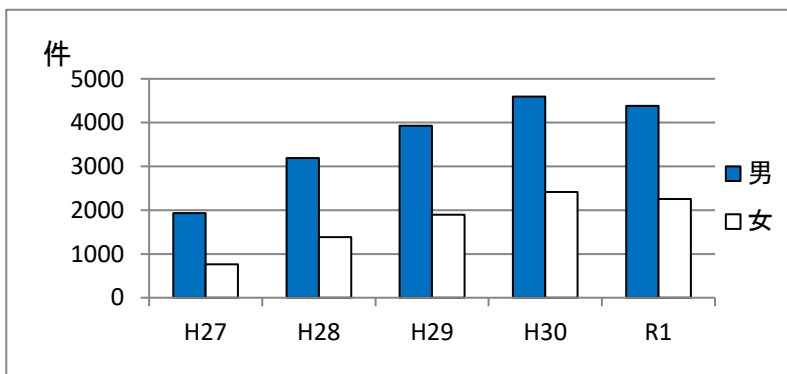


図11 全国の梅毒報告の男女比の推移【平成27年～令和元年】

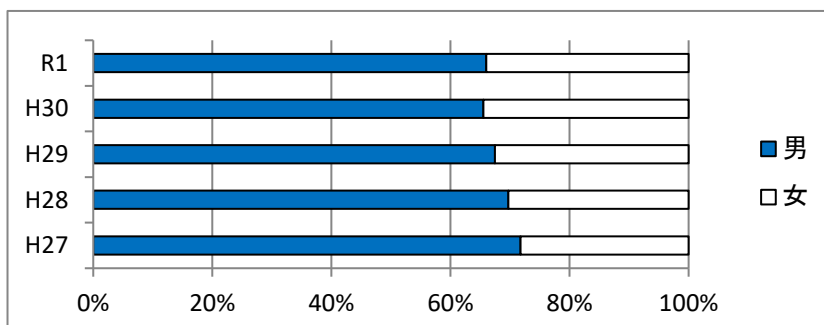
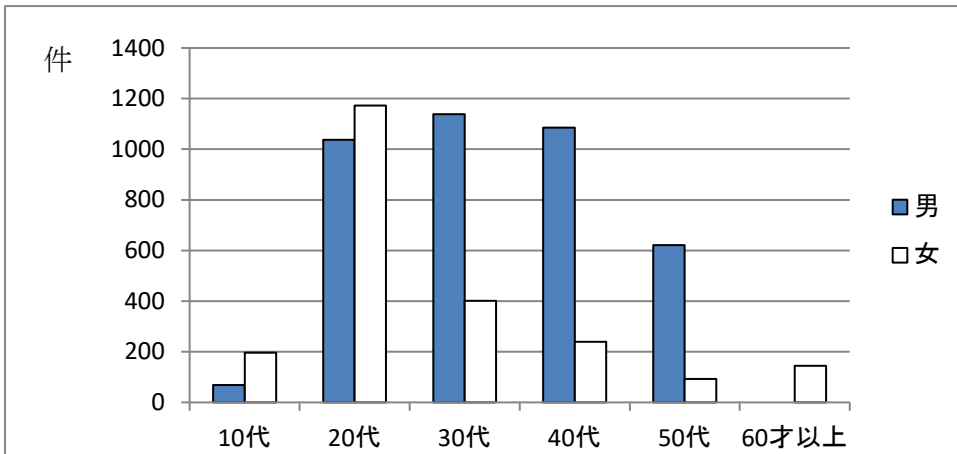


図 12 全国の年代別梅毒報告数【令和元年】



○ 仙台市の状況（令和2年は速報値）

・仙台市の梅毒報告数は、平成25年に急増したものの、平成26年に一旦減少したが、平成27年以降増加傾向にあり、特に平成29年以降、報告数の多い状態が続いている。

令和2年の報告数（速報値）は49件であった。【図13】

・男女別にみると、仙台市は全国と比べ、女性の報告割合が多い。【図14・15】

・令和2年の報告を年代別にみると、男性は40代・50代の報告が増加しており、女性は20代が突出して多い。【図16・図17①②③】

図13 仙台市の病期別梅毒報告数の推移【平成20年～令和2年 ※R2年は速報値】

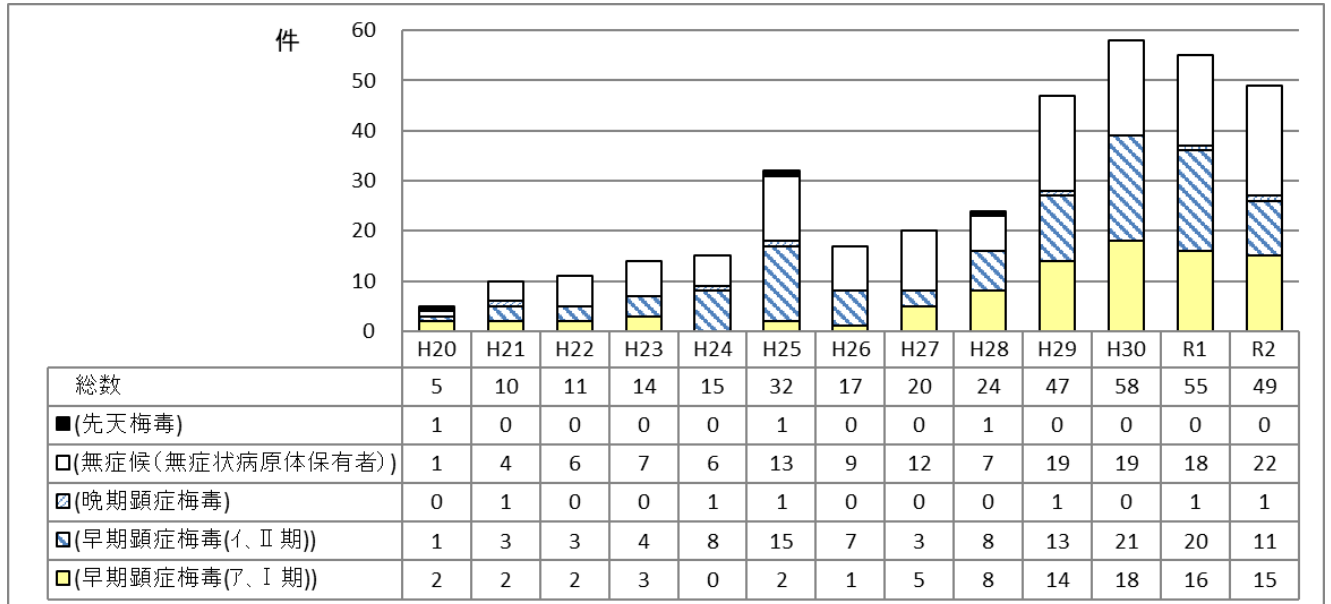


図14 仙台市の男女別梅毒報告数の推移【平成28年～令和2年 ※R2年は速報値】

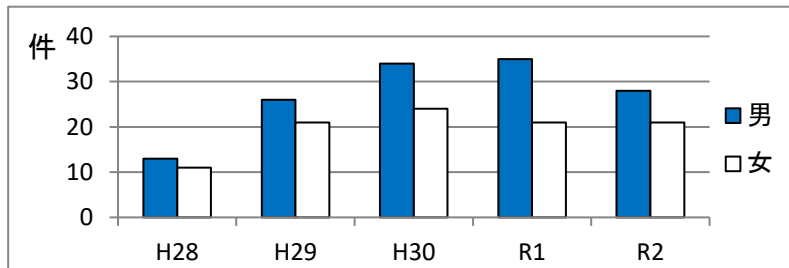


図15 仙台市の梅毒報告の男女比の推移【平成28年～令和2年 ※R2年は速報値】

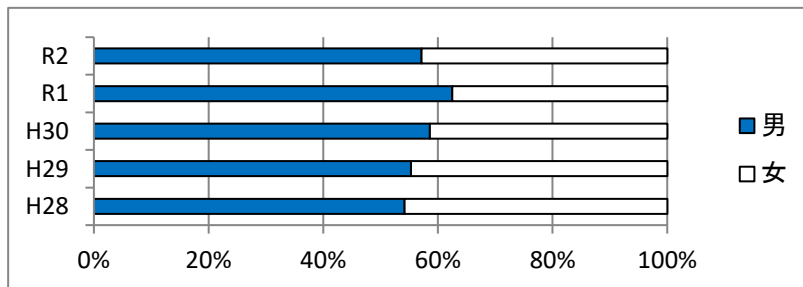


図16 仙台市の年代別梅毒報告数【令和2年 ※速報値】

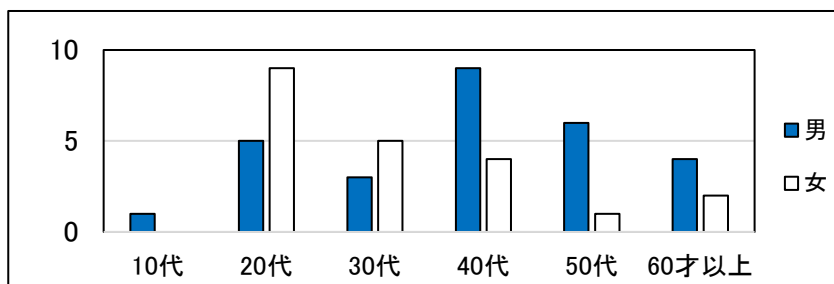
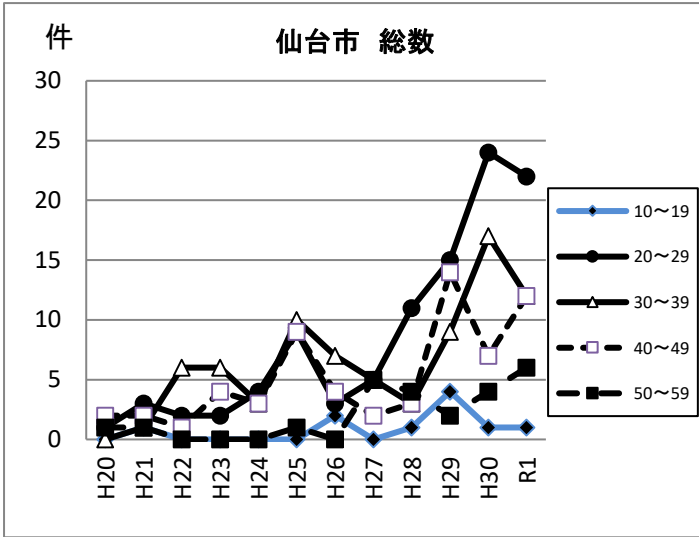
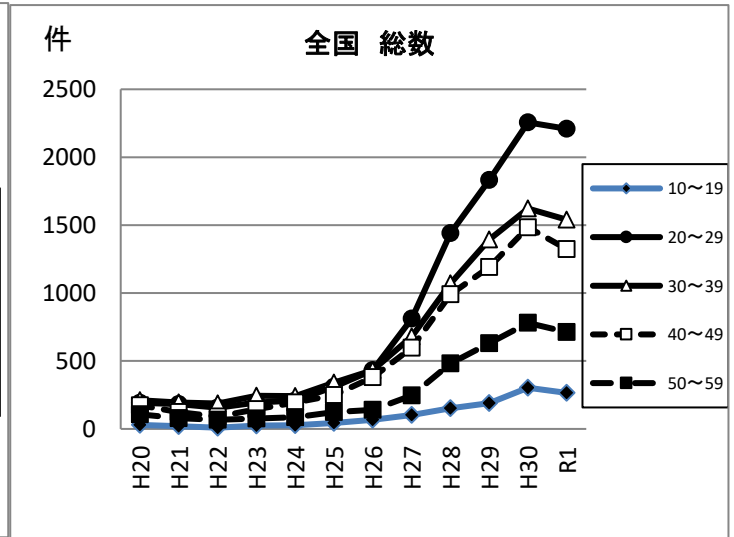


図 17 仙台市・全国の性別・年代別梅毒報告数の推移【平成 20 年～令和元年 10 代～50 代】

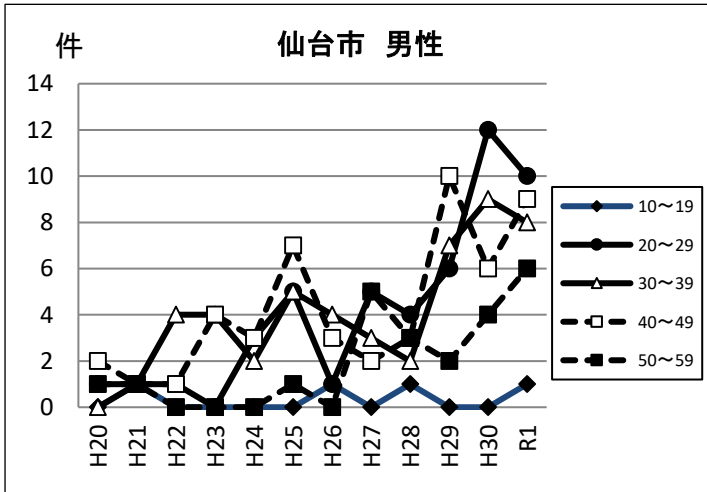
①



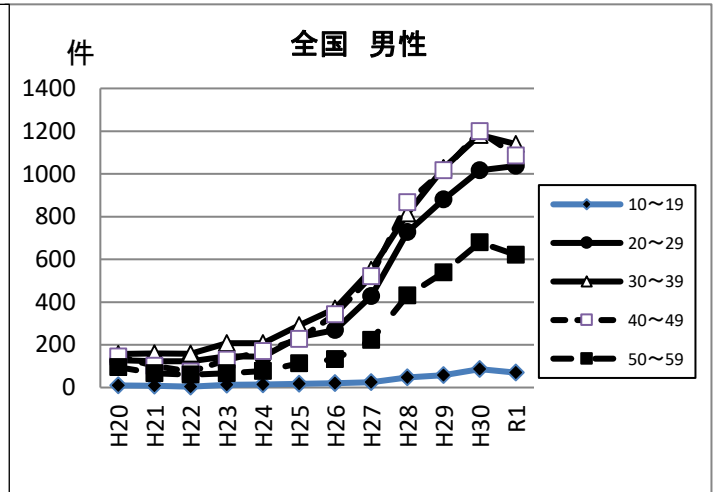
④



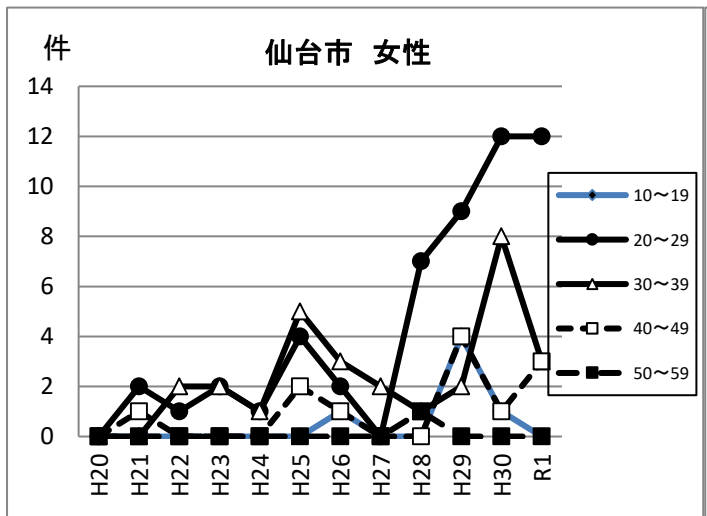
②



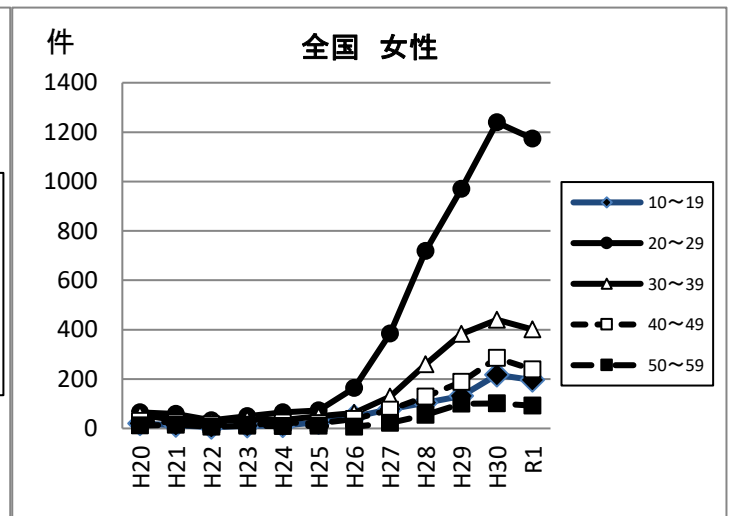
⑤



③



⑥



○ 梅毒発生届に追加となった事項のまとめ（仙台市の状況）【表 1】

- ・平成 31 年 1 月より、医療機関からの梅毒届出事項に以下の項目が追加された。
  - ①性風俗産業の従事歴の有無（直近 6 か月以内） ②性風俗産業の利用歴の有無（直近 6 か月以内） ③口腔咽頭病変の有無 ④妊娠の有無 ⑤梅毒の治療歴の有無 ⑥HIV 感染症の合併の有無
- ・仙台市の令和 2 年の梅毒報告数（速報値）49 名（男性 28 名、女性 21 名）の内訳は表 1 のとおりであった。
- ・仙台市の届出のうち、直近 6 か月以内に性風俗産業の従事歴・利用歴があると確認されている者の割合は、令和元年が 45.5%、令和 2 年が 40.8%であった。【表 2】

**表 1 仙台市の梅毒患者の状況【令和 2 年届出分 ※速報値】**

①性風俗産業の従事歴（直近 6 か月以内）

区分	男性（28 名中）	女性（21 名中）
あり	0	9
なし	22	11
不明	6	1

②性風俗産業の利用歴（直近 6 か月以内）

区分	男性（28 名中）	女性（21 名中）
あり	11	0
なし	11	18
不明	6	3

③口腔咽頭病変

区分	男性（28 名中）	女性（21 名中）
あり	0	1(*)
なし	28	20

\*硬性下疳（口腔咽頭）

④妊娠

区分	女性（21 名中）
あり	0
なし	21

⑤梅毒の治療歴

区分	男性（28 名中）	女性（21 名中）
あり	2(*)	1(*)
なし	24	19
不明	2	1

\*治療時期：1 年より前 2 名、1 年以内 1 名

⑥HIV 感染症の合併

区分	男性（28 名中）	女性（21 名中）
あり	2	0
なし	11	7
不明	15	14



表 2 性風俗産業の従事歴・利用歴ありと確認されている者の割合

【仙台市の令和元年・2年の状況 R2年は速報値】

区分	全梅毒報告数 (件)	性風俗産業の従事歴 ・利用歴あり(件) (直近6か月以内・実数)	性風俗産業の従事歴 ・利用歴ありの者の割合 (直近6か月以内)
令和元年	55	25	45.5%
令和2年	49	20	40.8%

### 3. その他の性感染症の発生動向

・性感染症4疾患の定点あたり報告数については、仙台市の報告数は全国の報告数に比較して多い傾向にある。特に、尖圭コンジローマ、ヘルペス、クラミジアにおいてその傾向が強い。

【図18】

・令和元年の仙台市と全国の4疾患の定点あたり報告数を年齢別・性別にみると、クラミジアは10代と20代前半女性の報告が特に全国と比べ多い。ヘルペスは、30代前半男性と10代・20代女性が全国よりも特に報告数が多い。淋菌は10代から20代の女性が全国よりも報告数が多い。尖圭コンジローマは、男性は幅広い年代で全国に比べ報告数が多い。【図19】

※ 性感染症4疾患は定点報告

※ 令和元年の性感染症4疾患の定点医療機関として、産婦人科5か所、泌尿器科3か所に調査を依頼している。

図18 全国・仙台市性感染症定点あたり報告数の年次推移【平成27年～令和元年】

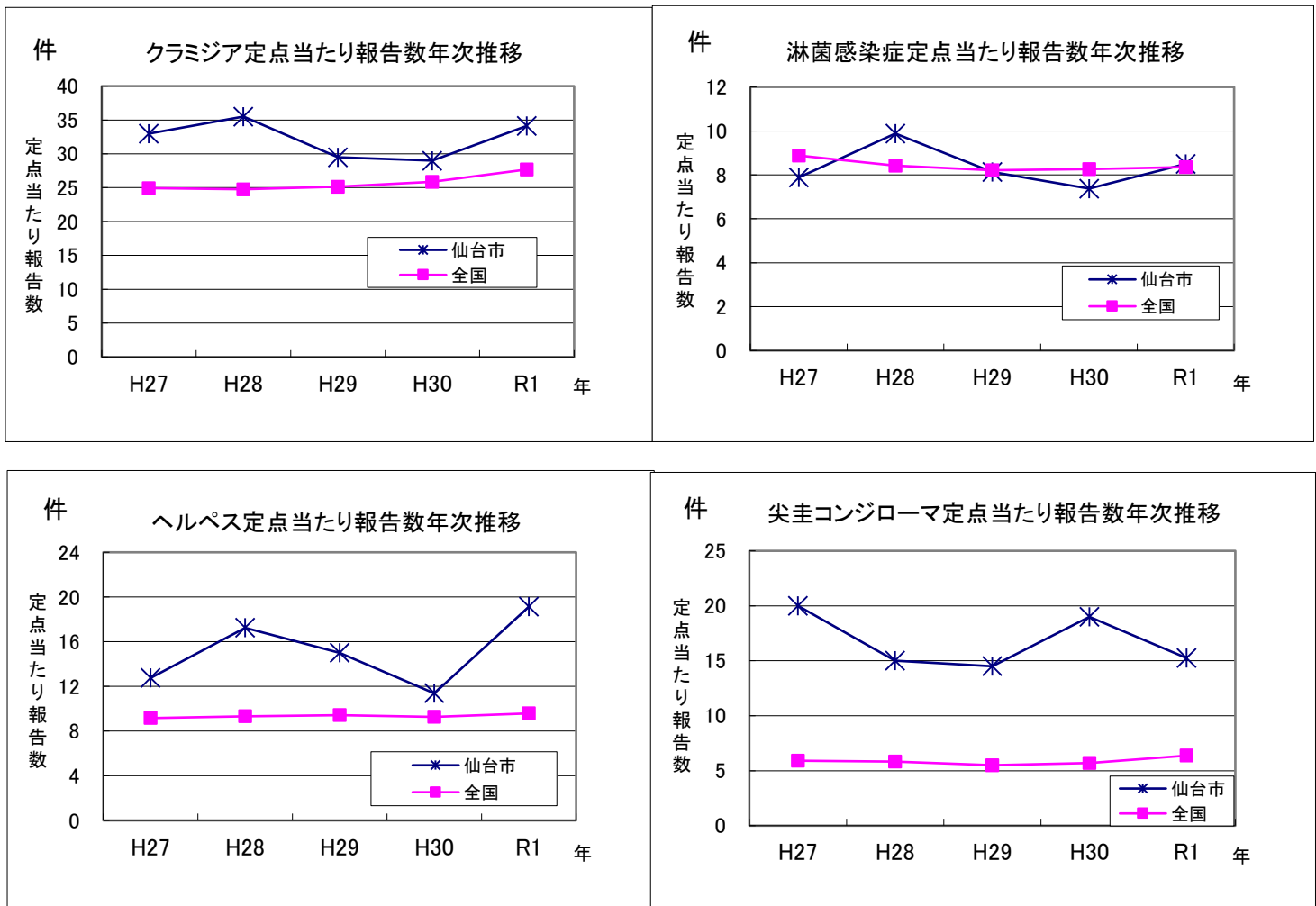
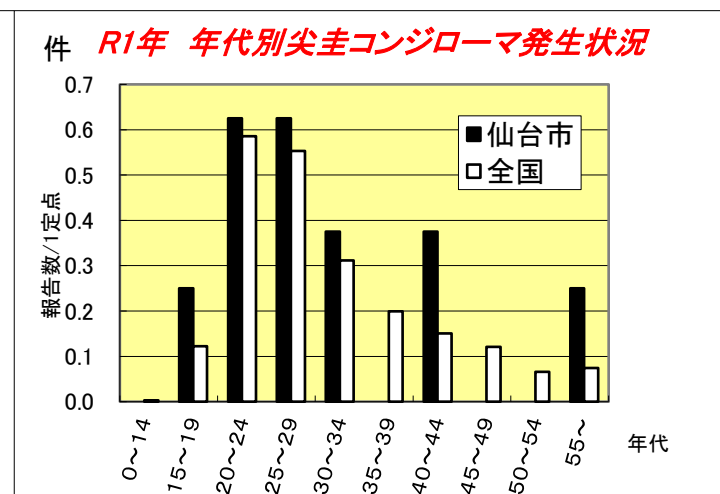
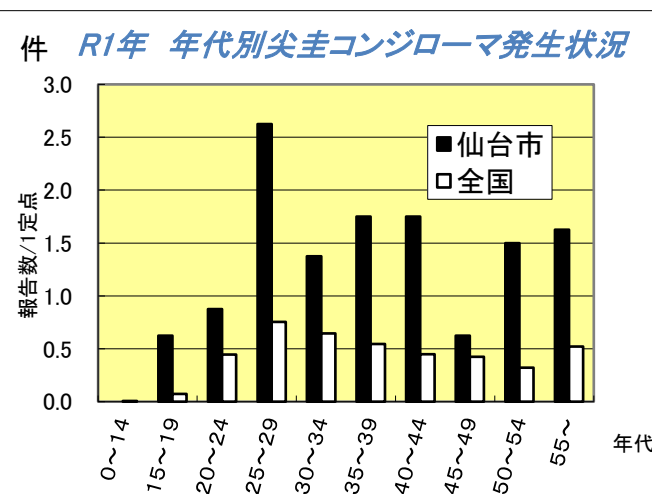
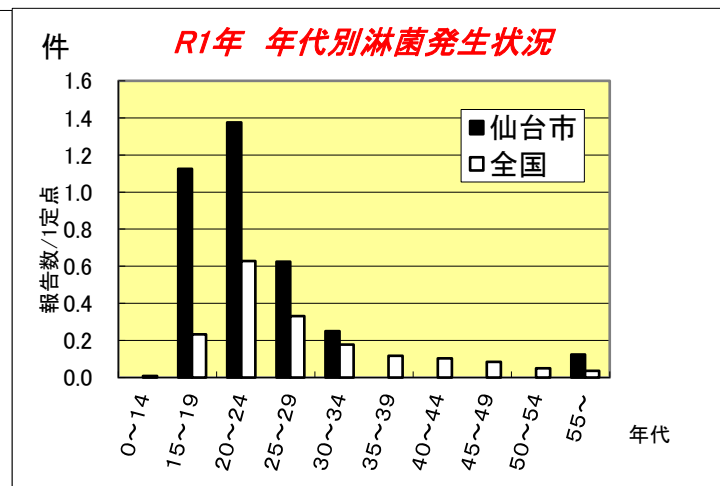
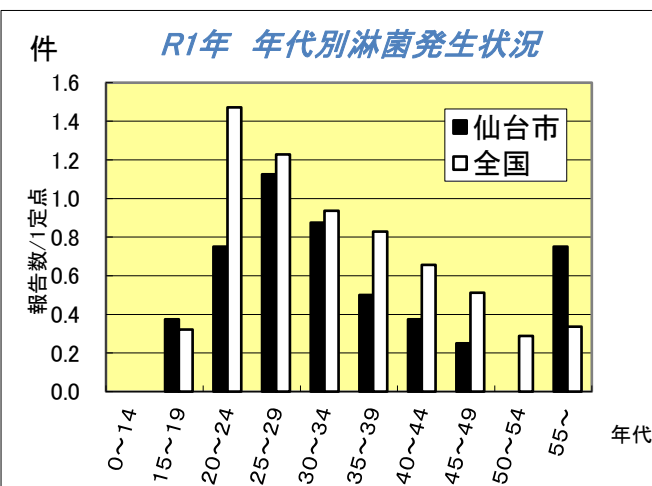
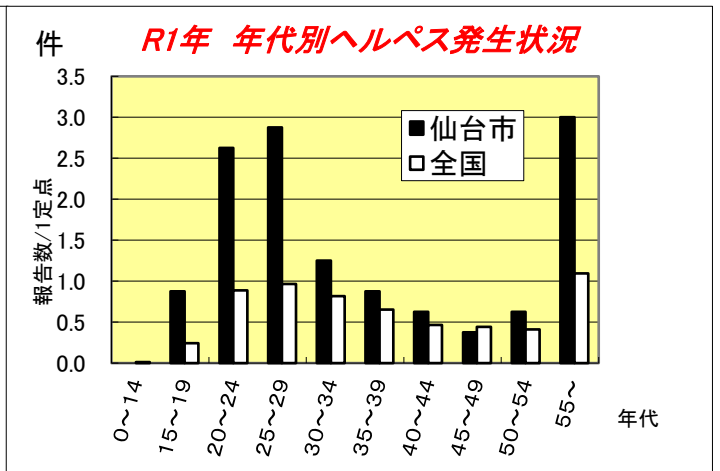
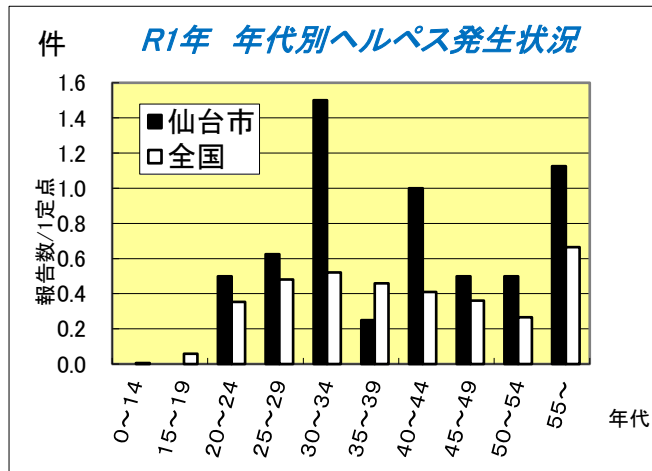
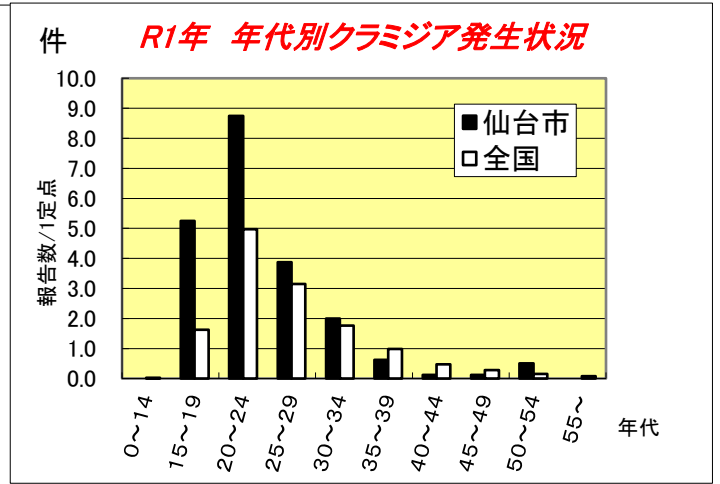
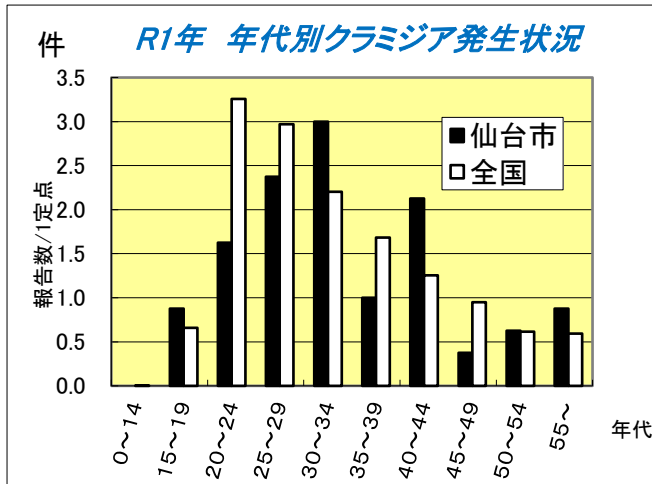


図 19 令和元年 年代別性別別感染症発生状況（全国・仙台市との比較）

< 男 >

< 女 >



#### 4. 仙台市保健所の HIV・性感染症検査の実施状況

※検査状況は年度で集計しております。  
(R2 年度は 12 月末現在)

##### (1) HIV 検査

・令和元年度の HIV 検査数は 1,951 件で、前年度より 55 件減少したものの、過去 3 番目に多い件数であった。検査の区分別にみると、アエル夜間検査（旧 国分町夜間検査）と青葉区役所夜間検査において 1 回あたりの受検人数が増加した。【表 2・図 20】

・令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対応のため 4 月 10 日より、委託で実施するアエル夜間検査を除き HIV・性感染症検査を休止した。その後 7 月より休日検査のみ再開している。アエル夜間検査・休日検査ともに、会場内の密を避けるため、通常よりも定員を縮小して実施している。

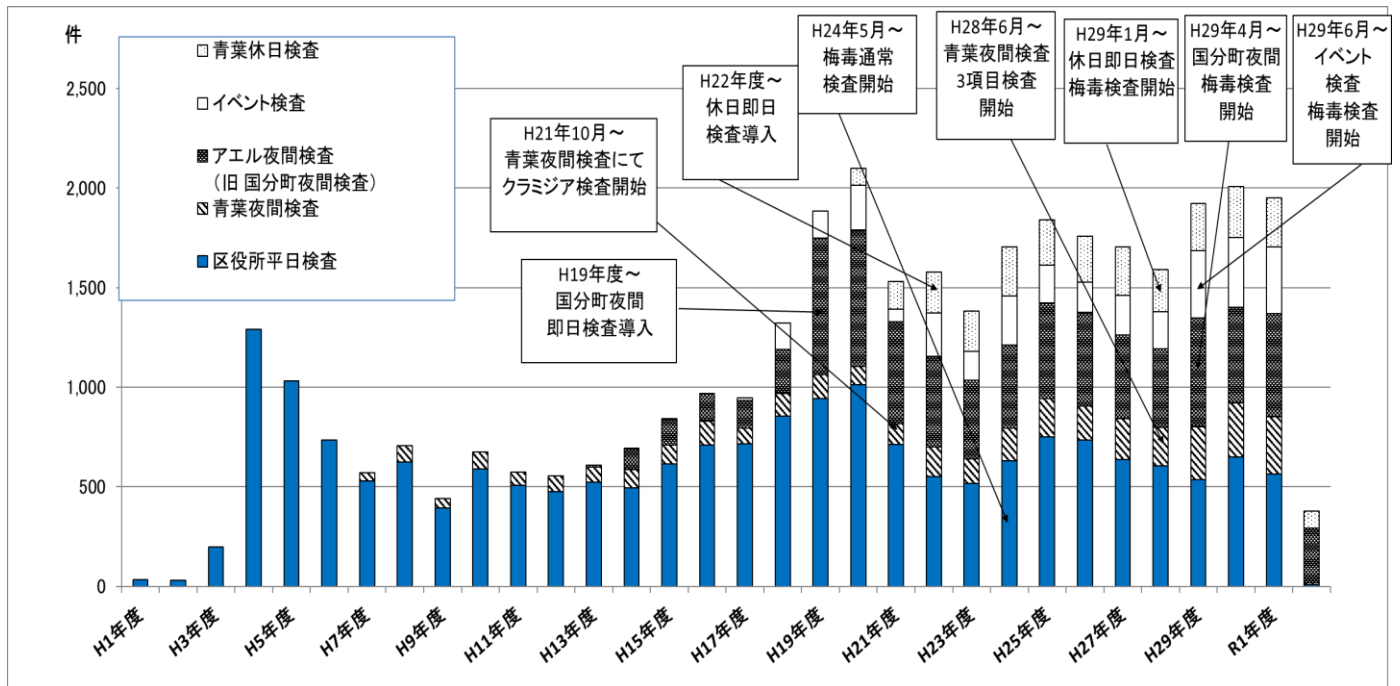
(アエル夜間検査：30 名/回→20 名/回、休日検査：35 名/回→15～20 名程度/回)

表 3 仙台市保健所の HIV 検査件数【平成 27 年度～令和 2 年度 ※R2 年度は 12 月末現在】

※①～⑤の各項目：上段が件数(件)、()内は 1 回平均受検者数、下段が割合(%)

年度		H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
検査数(件)		1,703	1,590	1,923	2,006	1,951	378
内 訳	① 区役所平日※	637 (4.4)	604 (4.3)	536 (3.8)	650 (4.6)	563 (4.1)	7 (3.5)
		37.4	38.0	27.9	32.4	28.9	1.8
	② 青葉区役所 夜間※	205 (17.1)	193 (19.3)	264 (22)	271 (22.6)	287 (23.9)	9 (9)
		12.0	12.1	13.7	13.5	14.7	2.4
	③ 休日※ (H22～即日)	243 (24.3)	212 (21.2)	238 (23.8)	254 (25.4)	246 (24.6)	86 (12.3)
		14.3	13.3	12.4	12.7	12.6	22.8
	④ イベント(即日) ※	199 (99.5)	187 (93.5)	338 (169)	352 (176)	337 (168.5)	0
		11.7	11.8	17.6	17.5	17.3	0
	⑤ アエル夜間※ (H19～即日)	419 (17.5)	394 (17.1)	547 (23.7)	479 (20.8)	518 (22.5)	276 (16.2)
	(旧 国分町夜間 H31.1 月～アエル に会場変更)	24.6	24.8	28.4	23.9	26.6	73.0
陽性者数(人)		4	4	5	3	3	1
陽性率(%)		0.23	0.25	0.26	0.15	0.15	0.26
陽性者受検会場(人)		①1 ④2 ⑤1	①2 ④1 ⑤1	①1 ④2 ⑤1	①2 ⑤1	①1 ②1 ⑤1	③1

図 20 仙台市保健所のHIV検査件数の推移(※R2年度は12月末現在)



## (2) 梅毒検査

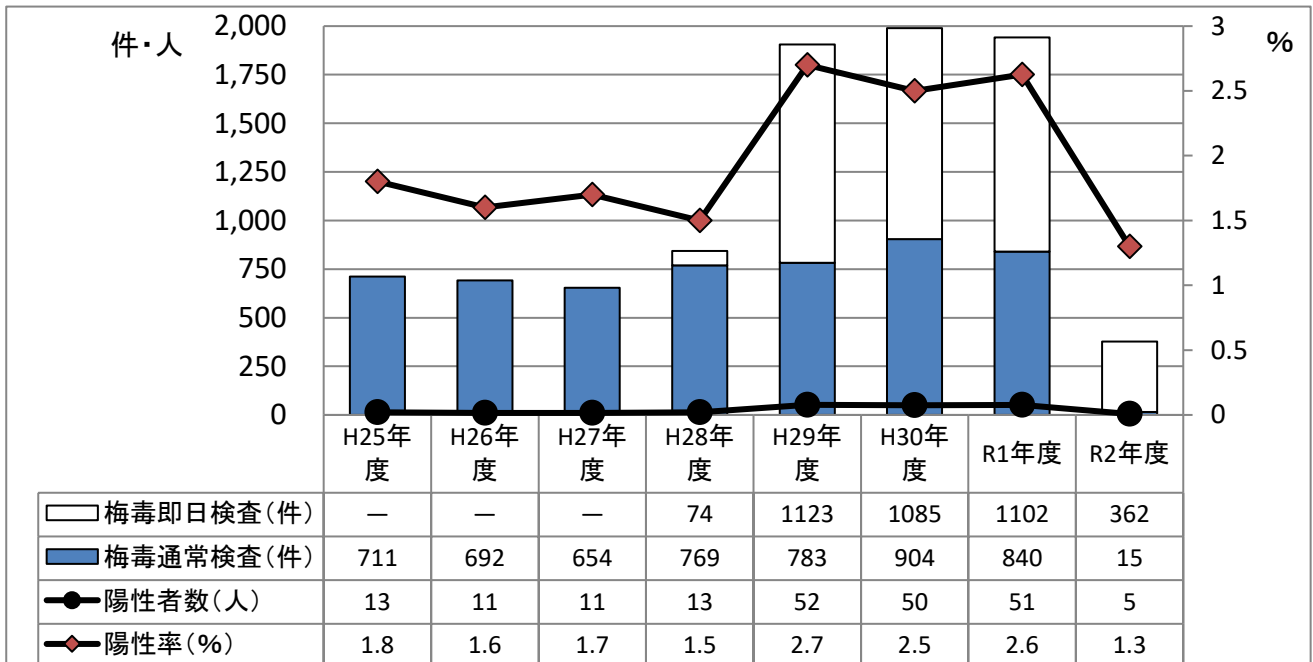
・梅毒検査は段階的に拡充し、平成 29 年度より全検査会場で受検が可能となった。HIV との同時受検を必須とし、梅毒単独の受検は認めていない。

・令和元年度の梅毒検査は 1,942 件（即日検査 1,102 件・通常検査 840 件）で、前年度から 47 件減少した。【図 21】

・令和元年度の梅毒陽性率は 2.6%で、前年度の陽性率とほぼ同じだった。なお、平成 29 年度以降梅毒の陽性率が上昇しているが、その要因としては、梅毒即日検査では過去の治療歴でも陽性となることの影響、梅毒流行の影響、いずれも考えられる。【図 21】

・令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対応のため 4 月 10 日より、委託で実施するアエル夜間検査を除き HIV・性感染症検査を休止した。その後 7 月からは休日検査のみ再開している。感染対策のために受検定員を縮小しており、12 月末現在の梅毒検査は 377 件、陽性率は 1.3%であった。【図 21】

図 21 仙台市保健所の梅毒検査件数【平成 25 年度～令和 2 年度 ※R2 年度は 12 月末現在】



※梅毒検査の拡充の経過

- ・H24 年 5 月～ 平日区役所検査で開始
- ・H28 年 5 月～ 青葉区役所夜間検査で開始
- ・H29 年 1 月～ 休日検査（即日）で開始
- ・H29 年 4 月～ 国分町夜間検査（即日）で開始
- ・H29 年 6 月～ イベント検査(即日)で開始、全検査会場で受検が可能となる

### (3) クラミジア検査

・仙台市のクラミジア検査は、平成21年10月より青葉区役所夜間検査で実施しており、青葉区役所夜間検査ではHIV・梅毒と併せて最大3項目の同時検査が可能である。

・平成29年度より予約定員数を30名から35名に増やして実施している。令和元年度のクラミジア検査件数は289件、陽性率は4.5%と、昨年度に比べ陽性率がやや減少した。【図22・表4】

・令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、4月のみ検査を行い、5月以降は休止している。4月は定員を15名に縮小して受付したため、検査数は10件、うち陽性は2件であった。

【図22・表4】

図22 青葉区役所夜間HIV検査・クラミジア検査受検者数の推移

【平成20年度～令和2年度 ※R2年度は12月末現在】

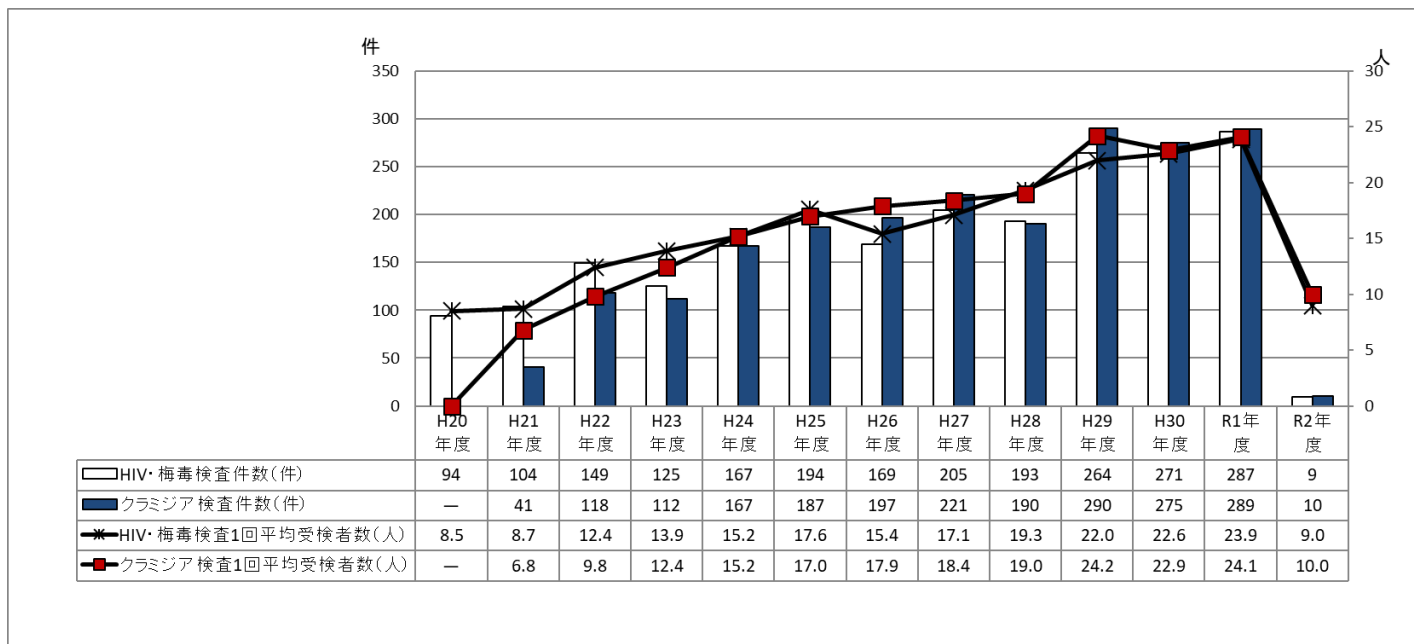


表4 仙台市のクラミジア検査件数と陽性率の推移

【平成27年度～令和2年度 ※R2年度は12月末現在】

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
クラミジア検査件数(件)	221	190	290	275	289	10
クラミジア陽性者数(人)	19	7	20	17	13	2
クラミジア陽性率(%)	8.6	3.7	6.9	6.2	4.5	20